

# 衝撃吸収装置で「交通事故から人命を守る」



## エヌケイシー株式会社

### 車両衝突緩衝装置で死亡事故ゼロを目指す

年々増加傾向にあり、平成16年は95万件以上も発生した交通事故。一方、財団法人交通事故総合分析センターのデータによると、事故件数は増えているにもかかわらず、近年、死亡者数が減少している。それは、ドライバーの命を守る技術が日々進化しているからに他ならない。

エヌケイシーでは、事故の衝撃を吸収し、人命を守るショックプロテクターやポールクッションの製造販売を手がけている。「時速130キロで激突しても無事だったケースや、車が大破しても本人は歩いて家に帰ったケースもあります。首都高のホームページにも『車は大破したが、ショックプロテクターのおかげで命は助かった』との感想が寄せられています。事故を無くすことは難しいですが、死亡事故をゼロに近づけることはできます。死亡事故の23%は対物事故、物への衝撃吸収が死亡事故の減少につながるのです」と喜多敏明社長は語る。

電子機器の微小な振動を吸収する機器の製造からスタートした同社、振動を吸収する技術とは、エネルギー



の吸収をすること。できるだけ小さく、短い範囲で最大限にエネルギーを吸収するという技術を活かし、道路上の衝撃吸収装置の分野へと転身した。

「日本の道路には砂袋が並んでいくらくらいで、衝撃を吸収する装置はありませんでした。高速道路の分岐点等、わずか数mのスペースで、加速度を抑えて、できうる限りエネルギーを吸収する装置の開発が望まれていたのです」と、開発部の山崎誠部長も話す。

加速度20G以上の衝撃を受けると人間は死亡してしまうという。高速道路での事故では90〜100Gの衝撃を受けるため、尊い人命が失われてしまう。同社のショックプロテクターやポールクッションは、特許を保有している慣性質量体や緩衝ボックスを複数組み合わせた構造でエネルギーを吸収し、人にかかる加速度を20G以下にすることに成功した。すでに首都高の200か所を筆頭に、県道、市道にも50か所以上設置される等、全国へと広がっている。

### 啓蒙活動も積極的に行い全国への普及を模索

実際に命の保全に実績を上げている同社の製品だが、問題となるのはコストで、行政の財政問題から設置台数が伸び悩んでいるのが現状だという。しかし、J・R西日本の事故以来、安全にはコストが掛かるとの認識が広まりつつあり、行政も設置には前向きだ。

喜多社長は「日本はこれから高

齢化社会を迎えます。ドライバーの年齢が上がれば判断力やとっさの反応速度が衰えるケースも増え、交通事故の件数増加も考えられます。人命を救うショックプロテクターの需要は増えるでしょうから、皆さんの理解を得て設置台数を増やしていきたいですね」と語った。

#### 主な事業内容

ショックプロテクター・ポールクッション(車両用衝突緩衝装置)の製造等



喜多敏明さん  
代表取締役社長



山崎 誠さん  
取締役開発部部长

#### エヌケイシー株式会社

#### Company Profile

住所 / 〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町1-6-22  
新町新興産ビル3F  
設立 / 平成11年4月  
資本金 / 1,200万円  
従業員 / 7名 (平成21年1月現在)  
TEL / 06-6537-5357  
FAX / 06-6537-5367

全国  
20

関西  
20

<http://www.nksp.co.jp/>